

「開けゴマ！」

教養学部 全科履修生

栃木学習センター 大石 寿子

大勢の盗賊たちが奪った宝を隠しているのを偶然に目撃したアリババ。隠し場所の扉をふさいでいる岩が「開けゴマ！」という呪文によって開かれ、「閉じよゴマ！」の言葉で閉じていく。それを見ていたアリババはその隠れ家に忍び込み、財宝を手に入れる…。ご存知『アラビアン・ナイト』より「アリババと四十人のどろぼう」のあらすじである。

私はとにかく夢見がちな子どもで、本さえ預けておけばおとなしい子だったそうだ。本の世界に入り込んで自分をも主人公にしたて、「開けゴマ！」で欲しいものを手に入れうっとりしたり、財宝を独り占めせず貧しい人に分けてあげたアリババのことを好きになったりしていた。

私のイメージする「アラビア語」はまさしく、この物語の舞台であり、子どものときに夢見た世界である。本の挿絵には、中東あたりの風景やヴェールをまとった女性や独特の衣装を身にまとった男たちの姿が描かれていたように思う。そんな挿絵により想像をたくましくしていた私にとって、「アラビア語」＝「開けゴマ！」なのである。外国語の選択にあたって悩んだのだが、ここは「開けゴマ！」のノリ。未知の世界に足を踏み入れる期待に胸が膨らんだ。

いざテキストがきて学習を始めてみると、ワクワクはたちまち不安に変わっていった。くねくねとした文字の羅列と実に細かいいきまりごと…。「アラビア語」をあやつる人はみんな天才なのでは？と思ったものだ。しかし、やっているうちにだんだんとわかるようになり、日本語にもある男性言葉や女性言葉と変わらないのではないかと思えるようになってきたのである。文化面（サッカーファ）も知識として増え、楽しみが加わった。勉強は苦しんだが、やがて面白みがわかってきたところで単位認定試験を受ける。達成感に包まれ、試験を終えることができた。

考えてみれば、放送大学そのものが「開けゴマ！」だと思う。目的はそれぞれ違っても、新しいことに挑戦するということは、未知の世界の扉を開くきっかけが必要だからだ。私にとって、まさしく自分を奮い立たせる呪文が「開けゴマ！」だったのだ。知らないことを理解する醍醐味と大学生であることの誇り。何十年か前の大学生活とはまた違った充実感が得られている。私はあと4単位で卒業を迎えるが、まだまだ学びたい気持ちで一杯になっている。未知の世界への呪文「開けゴマ！」の精神で学習を続けていきたい。こんな気持ちにさせてくれた「初歩のアラビア語」に感謝して…。